

暮らし

クシラ食文化を守る会(会長・小泉武夫東京農大名誉教授)が熊本市で開いた「鯨と食文化を語る市民の集い」で、鯨肉を使った「鯨特製弁当」が配られた。メニューの一部は尚綱大の学生が考案。集いでは、栄養素豊富な鯨の特徴が紹介された。

鯨弁当づくりは、同大栄養学科の2年生が昨年度の授業で挑戦。管理栄養士の戸次元子さん、熊本くしら食文化を守る会事務局の下鶴容子さんの指導で、定番の竜田揚げを中心に鯨肉のハンバーグなど新メニューを試作した。

実際の弁当には、竜田揚げ、ケチャップ煮を採用。これに戸次さんらが、水前寺菜ともやしのごまあえなど熊本の食材や伝統料理を組み合わせた。

尚綱大学生ら「鯨弁当」

—鯨と食文化を語る市民の集い—
豊富な栄養素なども紹介



熊本市であった「鯨と食文化を語る市民の集い」で配られた鯨特製弁当。メニューの一部は尚綱大の学生が考案した

最終的なメニューは、鯨の皮が入った高菜めし、赤肉の山椒みそ焼き、鯨しぐれ煮など計13品。最近の食卓では縁遠くなった鯨だが、食材として豊富なメニューに利用。食に関する書が多い小泉会長も講演の中で絶賛した。

集いでは、パネル討論で戸次さんらが鯨の栄養面の特徴を解説。また、元赤坂プリンスホテル総

「その他3障害」就労に壁

難病や発達障害、高次脳機能障害がある人の就労について、熊本市のNPO法人おーさま(小笠原嘉祐理事長)が実施した全国調査の結果がまとまった。「仕事ができれば問題ない」との理解の一方、障害への無理解や制度上の不備などの課題が浮かび上がった。

熊本市のNPO 全国企業調査

障害者基本法が定める身体、知的、精神のいわゆる「3障害」に対し、法定外の難病や発達障害、高次脳機能障害は「その他の3障害」と呼ばれる。基本的に公的支援の枠外で、企業などに一定割合の障害者雇用を義務付ける障害者雇用(法定雇用)率にも含まれない。

調査は2009年10月から

難病や発達障害、高次脳機能障害 無理解や固定観念根強く

ことし2月、全国1000社へのアンケートで244社から回答を得た。調査結果によると、履歴書に「その他の3障害」の記載があっても「面接の結果次第」23%、「仕事ができれば問題ない」23%。「書類選考で不採用」は3%にとどまった。

採用後に障害が分かった場合の対応(複数回答)では、170社が「仕事ができれば関係ない」、120社が「障害に応じた配慮を検討」と答えた。それでも、今後の新規採用が可能としたのは数社のみで、それぞれ100社以上が「知識がない」「仕事や生活面をサポートできる余剰人員がいらない」「障害に見合った仕事がない」といった理由

短 信

◇長期療養中の子ら
親のおしゃべり
午前10時 熊本市大
合保健福祉センター
バルくまもと」
家族
なく、だれでも参加
無料。託児あり。市
支援永野さん096
(8)2421。

◇難病のある方
8日午後1時半〜3時
本市大江の市総合保
ンター「ウェルパ
と」。市難病・疾病友
会主催。難病の人や家
互いに語り合う場を
る。無料。市障がい保
096(228)22

本

「自宅で親を
看取る知恵
山本

母親を病院で亡くし、その無念さを胸に暮らした父親の在宅介護。自宅ではホームヘルプ看護を活用。容体がたときは老人保健施設利用しつつ、「親族の支援を続けた。

日常的な体調の変化を払い、父親との会話されながら過ごした介護生活。介護・医療課題や諸経費報告、自設の長所・短所なども。(朝日新聞出版・1円)



共同運輸で配送先別に商品を仕分けする自閉症の男性。同社は「障害がある人が働きやすい職場はみんな働きやすい」という発想に立ち、その他の3障害を含む障害者雇用を積極的に進めている(合志市)

積極雇用の共同運輸(合志市)

能力に応じた支援、工夫

同社の従業員267人の障害者の特性についても、障本格化した2003年にうち、障害がある人は25人。害がない従業員への理解を浸透させている。その一方で、コミュニケーションを続けている。職場内は、障害者手帳の交付を受け、手帳を持っていても職場の仲間がサポートすることで、障害特性からは困難とみられる工夫が取り入れられている。